

令和2年度 自己評価書

学校名	和歌山市立広瀬小学校
校長氏名	酒井 千佳
作成日	令和3年3月1日

1 教育目標

たくましく豊かに生きぬく子を育てる

2 本年度の取組についての評価

	確かな学力の向上	豊かな心の育成	健やかな体の育成	地域とともにある学校
指標	<ul style="list-style-type: none"> 「自分の考えを發表しようとしている」…児童90% わかる授業、子供主体の授業を実践した…児童・教師90% 	<ul style="list-style-type: none"> 学校が楽しいと感じる…児童90% いじめの解消率…100% 月1回の「広瀬の子」 校内委員会の実施…学期1回以上 	<ul style="list-style-type: none"> 積極的に運動を行うよう計画し、実践した…教師90% 給食後の歯磨き…児童100% 保護者や地域と連携した訓練の実施…年2回 	<ul style="list-style-type: none"> 学校の様子がよく伝わった…保護者90% 中学校区で接続、連携した取組を具体的に実践できた…教師90%
重点目標【P】	<ul style="list-style-type: none"> ◎学力の回復と学習内容の確かな定着 ◎個に応じた指導の工夫改善 ◎読書活動の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ◎子ども同士が高まりあう集団活動の充実 ◎人権教育の充実 ◎児童に対する共感的理解 	<ul style="list-style-type: none"> ◎体力の回復と向上 ◎基本的な生活習慣の確立 ◎危機回避能力の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ◎家庭・地域との連携充実 ◎中学校区における連携の推進 ◎コミュニティスクールとしての体制づくり
取組の状況【D】	<ul style="list-style-type: none"> ◎家庭学習の状況を適切に把握・評価し、個々の児童の理解に合わせた適切な補充学習を実施する。 ◎書くことで自分の考えを明確にし、意見交換や話し合いによる児童中心の授業スタイルに取り組む。 ◎学校図書の実践と読書習慣の確立に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎特別活動を中心としてよりよい生活をするための実践力を育てる。 ◎いじめの未然防止・早期発見・早期対応に努める。 ◎情報モラル等について、保護者とともに学ぶ機会をもつ。 ◎児童一人一人の状況を教職員全体で共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎たてわり活動等による外遊びを充実させる。 ◎生活リズムの回復と「早寝、早起き、朝ごはん」に取り組む。 ◎フッ化物洗口と歯磨き習慣を推進する。 ◎感染症予防の正しい知識（手洗い・マスク・換気等）とその実践力を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎各種便り、HP等を通して積極的に学校の情報を発信する。 ◎学校行事や地域の行事への相互参加、運営協力等による連携を進める。 ◎中学校区における小中、小中の連携を推進・充実する。 ◎ゲストティーチャーや読み聞かせボランティア等の取組を進める。
取組の成果と課題（評価結果）【R】	<ul style="list-style-type: none"> ◎3年目となる研究主題のもとで授業のねらいやまとめを明確にし協同的な学びに全体で取り組めた。 ◎基礎的基本的な内容の確実な定着がより必要である。 ◎わかる授業の実践…90% 	<ul style="list-style-type: none"> ◎児童主体でたてわり活動をすすめることができた。 ◎学校が楽しい…94% ◎いじめアンケート結果からの対応が迅速にできた。 ◎月1回「広瀬の子」、校内委員会、ケース会議等の開催により情報共有できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎フッ化物洗口や食後の歯磨き活動を実施できた。 ◎地震・津波、火災、不審者等に関する避難訓練を実施できた。 ◎感染症予防の正しい知識とその実践について教員が学び、児童とともに実践できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎学校の様子がよく伝わった…保護者94% ◎中学校区の校長会は開催できなかった。 ◎中学校区体育大会や部活見学への児童参加ができなかった。
改善方法【A】	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的対話的な学びに向けた授業研究の充実 ・基礎的基本的な内容の確実な定着 ・特別支援教育の視点を生かした個別の支援の充実 ・読書環境の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の課題意識の喚起と主体的な活動の充実 ・一人一人の児童の細やかな状況把握と情報共有・専門機関との連携 ・特別活動を軸とし、教科教育を充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭との連携によるより良い生活習慣づくり ・外遊びの推奨 ・交通安全教室や薬物乱用防止教室、喫煙防止教室の実施 ・より実践的な避難訓練の工夫と防災意識の高揚を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者や地域との情報共有による開かれた緊密な関係作り ・学校行事や地域の行事への相互参加、運営協力等による連携の継続 ・中学校との情報共有や情報発信

3 その他の課題

コロナ禍にあって学校の衛生環境の整備が進められるとともに、学校での生活様式も変化したが、模索の中で教職員と児童は懸命に対応し、地域や保護者からもあたたかい理解と協力を得て、何とか一年を過ごすことができた。単学級としての利点を活かした情報共有やチームとしての取組は大切にされているが、一方で、児童の安全確保、行事の円滑で安全な運営、校内の整備等の見地から、慢性的に人員の不足を感じる状況である。さらなる運用の工夫を重ねて児童のより充実した学びを保障する必要がある。